

秀歌五首選

黒石剛仁

- ・呼びずてにさるる歌人になる日まで 4 B
鉛筆を研ぐ肥後守 前川多美江
 - ・昨日見し台風の画によく似たる子宮内映
す写真を見をり 佐藤モニカ
 - ・ビニールの小袋に傘突つ込みてにんげん
専用の地下街をゆく 加利川友子
 - ・満中陰の義父の壺乗せなめらかに車体は
蟬丸トネルへ入る 中西由起子
 - ・重なり合う流水のごとき家族かな生まれ
し国をみな異にして クリシユナ智子
- 秀歌五首選は何度目か分からないが、毎回、一年間で五首は厳しいな、と思う。月々

の選歌で私自身が選んだ歌にはそれなりの思い入れがあるため、敢えて対象から外すこととした。

一首目、前川佐美雄と名字が同じであることから生まれた歌。二首目、三首目には、それぞれ発見がある。四首目では、「なめらかに」に惹かれた。五首目は、何と言ってもこの作者にしか歌えない作品である。

斉藤佐知子

- ・科学こそ諸刃の剣われわれは当事者だぞ
と生徒に言ひぬ 辻尾 修
- ・「沖繩戦七十年目の真実」はページ下「オ
ススメ記事」から 佐佐木定綱



・壇上へ上るも引かれ被爆忌の清水中学校
に戦争かたる 前川多美江

・追悼、愛国、右へ傲へといふごとくトリ
コロールの顔が増えゆく 松本 実穂

・夜ごと笛を吹きぬし若き先生は出征して
行けり皆と握手して 本田 遥子

社会詠として、社会と我れとの接点に思
いを深くしている作品から選んだ。辻尾氏
は長崎の教師、オバマ大統領の広島訪問を
テーマとし「当事者」という一言が重い。

佐佐木作は、時代の先端にあつて戦争を知
る方法。違和感に敏感に反応している。前
川作は被爆体験の語部として、松本作はテ
ロ事件に遭遇、本田作は美しい挽歌となつ